



『読解力』

校長 佐藤 紀明

この夏、研修会でAI「東ロボ君」を開発し、東京大学合格を目指した新井紀子先生の講演を聴く機会がありました。未来はAIにとって代わり、「人間のする仕事」は、かなり減ると言われています。ただ、AIを全て信用してはいけませんし、AIにも得意な分野があること。そして、人がAIに勝つためには、AIが苦手とする『読解力』を磨くことが大切であって、学校でも力を入れるべきだと学びました。

『読解力』は、「文章を読む力」と解釈されがちですが、『読解力』とは、「文章を正確に理解する力」を意味します。書かれた文章の登場人物の気持ちを推測したり、筆者の考えを正確に読み取ったりする能力になります。「行間を読む」という慣用語がありますが、筆者の本意が文章に書かれていないことがあります。使われる言葉から、文章に書かれていない部分を読み取る力も『読解力』です。

さらに言えば、文章だけでなく、他者とのコミュニケーションの中で、相手の置かれている状況や感情など、伝えたいことを把握し理解する力でもあり、日常の様々なシーンにおいて必要とされる能力とも言えます。

『読解力』は、コミュニケーションを円滑的に進めていく上で、非常に重要な力ですが、近年、日本人の『読解力』が低下しています。

日本人の『読解力』が低下傾向にあるのは、

PISA（国際学習到達度調査Ⅱ義務教育終了後の15歳を対象に行うテスト）の成績を見ても明らかです。2018年の調査では参加国中15位という結果ですが、2012年時点では『読解力』は4位だったので、この6年間で『読解力』が下がったことが分かります。

インターネットの情報に関する教育不足が『読解力』低下の原因だと言われています。必要な情報の選択、信憑性の高い情報を選ぶ学習が不足しています。デジタル環境が整い、インターネットで調べ学習を取り入れる授業も増えてきました。しかし、情報収集方法や選び方を学習する場面は少ないのが実情です。問題解決につながる情報の集め方や、情報と比べて信憑性を確かめる方法などを、さらに学校で教えていく必要があると思われます。

また、情報収集が簡単になって、読書量が大きく減りました。分からないことはスマホがあれば直ぐ調べられるので、本を読む機会が減りました。以前は、知らない知識を得るには、辞典や図鑑等で調べるしか方法がありませんでした。そのため、自然と本を読んではいたりますが、今はインターネットで早く情報が入る時代です。読書量が減ったことも、『読解力』低下の原因に繋がると思います。

SNSの普及で切り取られた情報をそのまま受け取り、自分で考える機会も減りました。SNSでは「短い言葉」で情報を発信するため、インパクトの強い部分だけを切り取ることが

多いです。切り取られた情報では、前後の文脈がないため、文章全体を読んで考える必要がありません。文章から書き手の考えを読み取る機会が減ったことが、結果的に『読解力』低下に繋がっているとも考えられます。

「読み・書き・算盤」とは良く言ったもので、最初に「読む」がくるように、全てにおいて「文章の内容を理解する」ことは大切です。

『読解力』は一朝一夕では身につけません。九九なら、毎日暗記すれば身につけてきます。同じように「平仮名」や「漢字」も練習すれば覚えていきます。しかし、『読解力』は、「本を読めば身につく」ものではなく、継続して積み重ねて身につくものです。ただ読むだけでなく、内容を理解し、自分で考えることができるようになるには時間がかかるものです。

言葉を覚える、文章を読む、どんなことが書かれているのか理解する。理解するだけでなく、深く考える。書かれている文章に心をときめかせたり、感激したり、共感を覚えて思わず涙をこぼすことなど…。『読解力』とは、そうした経験の積み重ねの上にあるのです。

私達は本を読み、主人公の気持ちになって泣いたりハッピーになったり、心を動かされる感動したり、ドキドキワクワクしたりします。この「心の動き」は、AIには絶対できません。

読書は子どもに夢や希望、果てしない想像力を与えてくれます。言葉によって動かされる感情、揺さぶられる気持ちなど、今の時代だからこそ、『読解力』を磨いて欲しいです。

卒業生にステパノでの思い出、学んだこと、得たことなど、奇稿頂きました。

令和2年度 第59回中学校卒業生 O・R

ひぐらしの声を聴くと、夏休みにみんなでサマーキャンプに行った時のことを思い出します。蟬の鳴き声が響き渡る街とは違い、少しひんやりとした富士山の麓ではひぐらしが鳴き、水道の蛇口をひねれば冷たい水が流れ、麓から見た富士山の景色はいつもの東海道から見るとは違っていったのを今でも鮮明に覚えています。みんなで野外炊事やキャンプファイアーをしたサマーキャンプは、私が一番好きな行事でした。他にも、先生がみんなに買ってくれた網を持って毎週のように海に遊びに行った時のことや、学校の山で鬼ごっこをした時のこと、調理実習でたくさんケーキを作った時のこと、学校に生えているピワをバケツ一杯にとってきたことなど、私にとってステパノには数えきれないほどたくさん思い出があります。

今は大学で看護を学ぶと同時に、養護教諭の免許をとるために教職課程の勉強もしています。そこで人間と教育の関係性を学ぶと、ステパノでの経験がどれほど貴重で恵まれていたかを実感しました。特に私は知識を教えるだけではなく、先生が生徒のことを信頼し、一人ひとりを大切にしてくれる環境こそがステパノのいいところであると思います。教育とは生徒自身の幸福を願ってされるものであり、個人の幸福が実現してこそ周りの人に幸福をもたらすことができます。そしてそ

の方法を学ぶのが学校です。学校で学ぶ知識とは独立したものではなく、経験を伴ってこそ人生の糧となるのではないのでしょうか。時にはトラブルに直面したり、失敗してしまったりすることもありました。でもそれら一つ一つが今に生きており、私を支えてくれています。もう戻ることができないことをとても残念に思うときもありますが、たまに先生方に会いに行ったり、ステパノまつりで友達と会ったりすると、昔と同じように接してくれてとても懐かしく安心した気持ちになります。ステパノは私にとって昔の自分に帰ることができるところであり、今後の目標にもつながっています。これからもステパノでの経験を大切にし、自身の成長を目指していきたいです。

令和3年度 第60回中学校卒業生 A・N

私は小学校一年生からの九年間を聖ステパノ学園で過ごしました。

ステパノ学園は少人数ということもあり、学年をまたいで行う様々な行事があります。ニコニコランチでは、小・中学校を縦割りでお昼ご飯を食べ、レクリエーションをしました。最初に班のメンバーと集まる時は緊張しますが、レクが終わった頃にはニコニコランチという名前にもあるようにみんなが笑顔になっています。また、クリスマス祝会では小・中交互に聖劇とオリジナル劇を行いました。クリスマス祝会はステパノでの思い出の一つであり、私を大きく変えてくれたきっかけ

でもあります。小学校入学当時の私はクラスメイトの前で自己紹介ができず、発表もいつも最後にまわしてもらっているような子でした。そんな私が変わったきっかけは小学五年生の時のクリスマス祝会です。私はナレーターだったので、当日急遽セリフが変わりとても困惑したのを覚えています。しかし、それをやり遂げた経験が私を変えてくれました。それ以来、私は劇の時に長いセリフの役に挑戦したり、部活に参加してみたり様々なことに挑戦するようになりました。「挑戦」が「怖いもの」から「楽しいもの」へと変わっていき、何かに失敗した時にも諦めるのではなく「あの時もできたから大丈夫」と思えるようになりました。

少人数制で良い所は、行事だけではなく勉強にも言えます。先生との距離が近いということもあり、私はよく昼休みや放課後にわからないところを質問しに行きました。夏休みの漢検対策の講習や漢検を通して身につけた漢字は今でも役に立っています。また、中学生の時に英語に興味を持ったことで、高校では外国人の方に英語でガイドをする活動に参加し、今はさらに英語を勉強できるような学部に進学できるように大学受験勉強を頑張っています。

最後に私には心に残っている言葉があります。「学校は勉強だけを学ぶところじゃない」という小学五年生の時の担任の先生の言葉です。少人数制でみんなに役割が与えられている場所、安心して過ごせる場所、学年をまたいで仲良くできる場所、それが聖ステパノ学園だと思います。

心躍る素敵な音楽会が行われました。

小学校1年 S・M
せんせいあね、きょうはおんがくかいがあつたんだけど、きんちようしてこえがそんなでなかつたから、さいごのほうでこえをいっばいだしすぎたからのどがいたくなっちゃいました。おんがくかいできんちようしました。

小学校2年 K・A
さいしよはぶたいにあがるのがこわかつたけど、がんばってできた。4・5年生の歌がすごかつた。



中学校1年 O・W
今日は音楽会でした。自分たちの発表も良かったけど、やはり中3の発表が一番よかつたです。Kちゃんが一番感動していて、自分もつられて感動してしまいました。中3の発表をもう一回ききたいです。

中学校3年 I・H
この日、音楽会がありました。沢山の保護者の方の前で今まで練習してきた成果を発表しました。「As The Deer」では、英語の単語の間やスピード、単語そのものの発音やタイミング等、課題がたくさんありましたが、回数を重ねていくうちに自然になっていき、本家により近い状態で歌えました。

「チェリー」では、今年の想いも背負って伴奏しました。途中テンポがずれてしまったかなとも思いましたが、なんとか弾ききれて、皆と一つの曲にできたので達成感が大きかつたです。

そしてなによりも嬉しかつたのが、聞いて下さった方々に「よかつたよ」などの声をかけてもらえたことです。ポスターもはめて下さつたので、とても嬉しかつたです。

ステパノの最後の音楽会でしたが、良い物にできて最高でした。

サマーキャンプでびびりかんの思い出を作りました。

小学校3年 Y・C
カレー作りがいちばんの思い出です。玉ねぎのかわをむいたり、切ったりしました。おりようりが大すきなのでとてもたのしかつたです。

小学校4年 N・H
昨日は、はじめてのキャンプでした。みんなで作つたカレーライスがおいしかつたです。夜、花火をしたのが楽しかつたです。ママがいなくてかなしかつたけど、がんばりました。

小学校5年 S・K
サマーキャンプでは、「もえろよもえろ」を歌いました。しかつたです。「もえろよもえろ」を歌いました。火をつけると、すごいいきおいで燃えてかっこいいと思ひました。お風呂はとても温かいお湯で気持ちよかつたです。夜はすぐに眠れました。2日目は宮ヶ瀬ダムへ行きました。とても大きいなと思ひました。ダムの横をおりていくケープルカーに乗りましたが、こわくなく、楽しかつたです。

小学校6年 S・A
バスに乗つたときは不安がいっぱいでしたが、愛川ふれあいの村に着いて、少し時間はかかりましたが、どうにかなれました。ご飯ものすごくおいしくてよかつたです。バイキングだったのでよかつたです。フライングディスクも楽しかつたです。おふるも気持ちよかつたけど、最後はのぼせちゃつてだるかつたです。キャンプファイヤーでは点火のぎしきでアラタエルをやつて恥ずかしかつたです。夜は、まったくねられなかつたけど、赤田先生のおかげでねられました。しかし、起きた時間は4時40分でした。それも楽しい思い出です。

中学校2年 G・T
1日目は洞窟探検をして洞窟に入つたらすごく

涼しかつたです。コウモリ洞窟に入る時、怖かつたけど、中に入つたら怖さは少しなくなりました。ライトを消したら目の前がまっ暗になりました。楽しかつたです。洞窟探検の帰り、体調が悪くなつて野外炊事が途中からになつてしまいました。お休みの人もいて人数が少ないのに、自分が体調悪くなつてしまつたから調理の人が1人になつてしまい、早く回復してほしいとずつと思つていました。回復してから炊事場に行つて野菜を切る事とお米をよそう事と洗い物をする事しかできなくてすごく悔しかつたです。来年は中3になるので頑張りたいです。

中学校3年 I・J
今日、サマーキャンプの1日目がありました。コウモリ洞窟という所があり、入つてみたら、今まで暑かつたのが急にエアコンみたいな涼しさで、しかも暗く、自分は初めての体験でした。山の中は急な坂があり大変でした。けれど大自然を感じられて、いい経験になりました。

野外炊事では、最初は火がつかなかつたのですが、その後よくついたので成功しました。2日間、このサマーキャンプで班長として活動をしました。更に、初めて感謝の言葉の代表を任されてビックリしました。最初はどんな言葉にしようかずっと悩んでいましたが、石川先生と一緒に考えたおかげで感謝の言葉ができました。でもやつぱり前に出るのは緊張してしまいました。でも、言えて良かつたです。

学校に戻り、その場でも話しましたが、みんなが一人ひとり指示を聞いてくれて班員全員が支えてくれたおかげで、大変なこともありましたが最後まで楽しいと言えるキャンプができてよかつたです。





上戸基夫先生にお話を伺いました。

——音楽とのつながりが強い印象です。

「トランペットとの出会いは小学校四年生、ジャズの好きな先生の影響でした。中学・高校では、吹奏楽部での活動から様々な交流が生まれ、オーストラリア、イギリス、フランスで演奏する機会もありました。その後、部活とは異なる楽しさを求めて、二十歳の時に、『鎌倉吹奏楽団 Music Farm』を立ち上げ、仲間に恵まれて約三十年の活動を続けることができました。創立時のメンバーも含め今も定期演奏会などを楽しんでいます。当時、高校生だった澤邊先生との出会いも楽団でした。今年、少人数でのハンドベル部が学外の活動も充実し、本番で成長する姿を感じました」

——本校とどのように出会われましたか？

「子どもの頃から、小学校の先生になりたいと思いつけ、大学時代には私立小学校のお手伝いのアルバイトなどをたくさんしました。プールや行事のサポートが楽しく、長く続けたことが経験の深みにつながったと感じます。

その後、前任校で勤めていた時に、前学園長の小川正夫先生から私の経歴を面白がっていただき、本校の礼拝に参加したことがご縁となりました。今年で十八年目になります。当時は、サンダーホームの児童生徒が多かつたので、子ども達の生活力の方が素晴らしく、掃除の仕方が下手だね等と言われました(笑)。自分の小学校・中学校時代が楽しいものだったので、その時期に関わり合えることが意味あることだと感じていました。何十年経っても卒業生とのつながりや近況報告が嬉しく、ありがたく感じて、その関係性が私立の良さであり、先生という職業の良さでもあると思います。以前は、子ども達が学校にいる間に何とかしたいという考えでしたが、年齢のためか、最近は、関わった子ども達が十年〜二十年先にしっかり生きていくことができれば良いなと長いスパンで考えるようになりました。スピード感のある仕事ではありませんが、少しでも種のようなものが伝えられると嬉しく、教職の良いところだと感じています。振り返ると、自分自身も人とのつながりに恵まれてきたと感じます。」

——ご両親とはどのような関わりでしたか？

「何でもやらせてもらったこと、キャッチボール、スキー、スケートなど様々な体験を一緒にしたことが印象に残っています。小中学生の頃は内気で人前に入るのが苦手だったのですが、教員だった両親が活動する合唱団や、父の職場などで大人にも引き合わせてくれたことが良い経験になったかと感じます。」

楽器や楽団と同様に、子ども達との関係性も、長く温かい目で見守って下さる上戸先生の静かな情熱を有難く感じました。(U)

○第72回 卒業の証 バイオリン科初等科
小6 T・J

○スクスクのつぼくんカップ
神奈川県 中央林間大会 3月 12才以下の部
優勝 小6 O・Y

○スクスクのつぼくんカップ
神奈川県 いずみ中央大会 5月 12才以下の部
優勝 小6 O・Y

○スクスクのつぼくんカップ
神奈川県 中央林間大会 5月 14才以下の部
準優勝 小6 O・Y

○第32回 中部陸上競技選手権大会
中学男子 200m 第3位 中3 Y・T

中学男子 800m 第2位 中3 I・J

中学男子砲丸投 第1位 中3 K・S

記録証 小6 S・R 小5 Y・H
○2024年度 神奈川県私立中学校陸上競技大会
男子2・3年 包丸投 第4位 中3 K・S

○日本漢字能力検定
準2級 合格 中2 S・P

【編集後記】

今月号は卒業生にステパノでの思い出を語ってもらいました。行事を中心として、ステパノでのいろいろな経験が現在の自分につながっているとのことでした。ステパノだよりではこれからも行事を中心に、子ども達のため皆さんの思いを掲載していきたいと思っております。ステパノだよりが子ども達の成長の一助となりますように。(一)

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二四年九月一日(月) 発行第288号